

中国大連大学附属中山医院から医師、看護師研修生を迎えて（報告）

令和元年9月2日から約2か月半、中国の大連大学附属中山医院から医師、看護師2名の研修を受け入れました。研修中は院内の医療通訳が、研修者と私達それぞれの言葉の橋渡しとなり、日々活躍してくれました。

今回の研修目的は、日本の先進医療、チーム医療、患者サービスを学ぶことでした。研修は、大学、病院の各専門の方々に担当していただき、研修生は、日本の医療保険制度、医療・看護の動向、当院の概要・運営・方針、各部門の役割など多岐に渡る内容を学びました。

部署実習では、入退院センター、外来、病棟、ICU、救命救急センター、手術室、リハビリテーション部などを見学し、看護ケアや、カンファレンスへの参加を通して多くの日本の看護実践に触れ合うことができたと思います。



海外の医療・看護事情を直接聞く機会は少なく、多くの参加者が興味深く聴講しました。最終日には、お二人から研修を通じた学びを成果報告会を開催しました。

研修医師からは日本の先進医療、優れた医療システム、卓越した医療技術・設備、高い学術研究レベルに触れ、視野が広がり、専門スキルを高めることができた、また患者への丁寧で温かい関わり、配慮にとっても感銘を受けた、と報告がありました。

研修看護師は、当院の看護管理、看護文化、患者サービス、職種を超えたチーム医療を学ぶことができた、また最新の看護知識を習得できた、今後自施設で指差し呼称、患者への十分な事前説明、など新たに取り組んでいきたいと報告がありました。

2か月半の国際交流を通して、日本と中国の看護の共通点、相違点を知ることができ、同時に私達の医療・看護を伝える中で日本の看護を客観的に見つめ直す機会となりました。国際化が急速に進む中、引き続き多種多様な考え方を通して私達自身が成長し、医療、看護を発展させていきたいと思えます。